

新型コロナウイルス対策にかかわる 認知症介護指導者緊急アンケート結果【概要版】

令和2年6月10日
認知症介護研究・研修センター

1. 本調査の目的

新型コロナウイルス対策等に関する課題や工夫等の情報を集め、この未曾有の緊急時における「認知症ケア」と「人材育成」の在り方について整理し、各所に提言することを目的とした。

3センターのホームページである Dcnet に結果を掲載すると共に、介護事業所等向けのリーフレット等の作成も視野に入れるものとする。

2. 対象と方法

1) 対象：全国の認知症介護指導者 2,410 名

(令和元年度末までに認知症介護指導者養成研修を修了した者)

2) 方法：インターネット上でのアンケートとし、アンケートの説明と依頼は郵送で行った

3) 期間：2020年5月19日 - 29日

3. 倫理的配慮

本調査の趣旨、個人情報の保護等について書面で説明し同意を得た。

4. 主な結果

767名の回答(回収率31.8%)があり、自施設あるいは系列施設で感染者が確認されたのは

34名(4%)であった。その内25名は調査時点で既に対応済みであった。(詳細版P19図9参照)

面会制限や外出自粛要請、感染症予防対策による「認知症の人や家族への影響、ならびに対応と工夫」、
「人材育成への影響と工夫」「認知症に関する地域活動への支障」について以下に示す。

1) 認知症の人にあらわれていると思われる影響(複数回答)について (詳細版P4表3参照)

	人数	%
家族と会いたがっている	377	49.2%
イライラしている(易怒性の亢進)	305	39.8%
外出したいという要望(外に出ようとする頻度)	230	30.0%
不穏になる	221	28.8%
健康状態の低下(ADLの低下)	213	27.8%

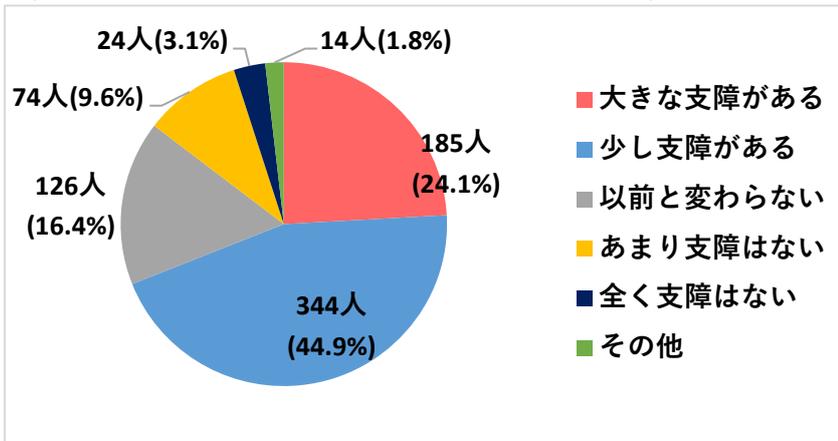
2) 以前と比べた家族の様子の変化(複数回答)について (詳細版P9図3参照)

	人数	%
家族がデイサービスの利用を控えている	360	46.9%
家族が医療機関の受診を控えている	290	37.8%
家族介護者のストレスが増加している	227	29.6%
家族がショートの利用を控えている	187	24.4%
家族が訪問サービスの利用を控えている	88	11.5%
家族介護者による虐待の可能性のある事案増加	40	5.2%

3) 認知症の人や家族への対応と工夫について (自由記述より抜粋) (詳細版 P5-8 表 4 参照)

カテゴリー名	自由記述の内容
感染症対策の徹底	・職員はフェイスシールド、使い捨て手袋着用で対応 / ・家族向けの感染対策についてのマニュアルを作成 / ・万一感染が発生した場合の対応についてのシミュレーション
オンライン・間接的な面会の実施	・スマホを使用し LINE ビデオにて面会 / ・透明なビニールで遮断 / ・ドライブスルー面会 / ・ガラス越しに施設内外にスピーカーを置きマイクを使って面会
電話・手紙などによる情報提供	・家族へ SNS や手紙等で普段以上に生活状況を伝えている / ・日頃の生活の様子を写した写真入りの家族への手紙を送付
本人・家族へのストレスマネジメント	・スタッフへ家族支援のマニュアルを作成しメンタルヘルスを工夫 / ・家族のストレスや困りごとの相談を聞いて回り、アンケートを実施
ケアの工夫	・食堂を 2 回転させ少数で食事を提供 / ・各グループを更に小グループに別ける / ・体操クラブの活用 / ・ドリフや昔の映画などの DVD 鑑賞で気分転換

4) 職場内における人材育成への支障について (詳細版 P11 図 4 参照)



5) 職場内研修の課題と工夫 (自由記述より) について (詳細版 P12 表 7 参照)

カテゴリー名	自由記述の内容
研修の中止や縮小	・体験型研修(例えば A E D 研修やポジショニング研修など)の実施が困難 / ・新採用職員の研修は例年に比べ大きく縮小した / ・職員の学習意欲の低下
従来通り実施する工夫	・全員マスク着用 / 2メートル以上離れて実施 / ・在宅と特養分けて研修実施
オンラインの検討	・オンライン研修を予定 / ・Zoom, LINE を使用

6) 認知症に関する地域活動への支障について (詳細版 P13 図 6, P15 図 7, P16-18 参照)

- ① 認知症カフェは元々運営している 351 人の内、休止中が 96.1%であったが、電話での相談を受けたり、Zoom での多職種カフェの開催などの活動を工夫する例もあった。
- ② これまで認知症サポーター養成講座を実施していた 397 名の内、99%が休止中であった。
- ③ その他の認知症に関する地域活動(見守り訓練, RUN 伴, 啓発活動など)に対しても、272 名(35.5%)の人が「支障がある」と回答していた。(支障の詳細は P16 表 11 参照)

5. 調査結果のまとめ

1) 今回の調査結果では、面会制限や外出自粛要請下での認知症の人には「家族に会いたがる」「イライラする」等の BPSD、さらに健康状態の悪化等の影響があらわれていた。これに対し、認知症介護指導者を中心としたケア現場では、感染対策の徹底を図りつつ面会方法の模索や DVD 鑑賞等、認知症の人が安定できるケアの工夫がなされていた。一方、通所サービスや認知症カフェの休止等による在宅介護の家族の負担増加に対し、ストレスマネジメント等が行われていることも明らかになった。

今後、3 センターではさらに現状の課題と対策情報に加え、感染者発生後の対応プロセス等も含め、有用な情報を参照しやすい形で集約し発信していきたい。

2) 人材育成の中断・不足の実態も明らかになり、今後のサービスの質に悪影響をもたらす可能性がある。事業所間格差の拡大防止のため、効果的な職場内研修方法や教材等の集約・発信も併せて行いたい。